

発行所：かつもとメンタルクリニック

〒543-0056 大阪市天王寺区堀越町10-13天王寺まつむらビル2F

TEL 06-6774-0525

編集・発行人：勝元 榮一

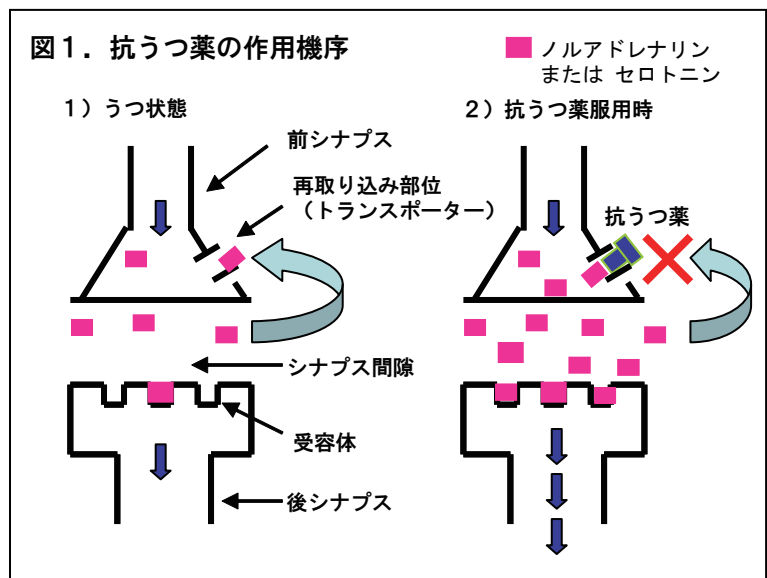
クリニックの理念
思いやりのある暖かで信頼される質の高い医療を提供いたします

<抗うつ薬の副作用および服用時の注意点>

こんにちは。7月号の発行が大変遅くなり申し訳ございませんでした。前月号でも予告していましたが「抗うつ薬の副作用および服用時の注意点」についてお話ししてみたいと思います。

1. 抗うつ薬の作用機序

まずは簡単に抗うつ薬の作用機序について説明してみます(図1)。うつに関係する脳内神経伝達物質にはセロトニンやノルアドレナリンなどがあります。うつ状態(図1-1)ではシナプス間隙における神経伝達物質が少なくなり、受容体へ結合する神経伝達物質も少なくなります。その結果、後シナプスへの刺激伝達も弱くなっていきます。シナプス間隙で受容体へ結合しなかった神経伝達物質は前シナプスにある『再取り込み部位(トランスポーター)』に取り込まれ、分解されます。抗うつ薬はこの再取り込み部位に結合し、「蓋をする」ことでシナプス間隙の神経伝達物質濃度を高め、受容体への結合を増やし、神経伝達を強めることで抗うつ作用をもたらします(図1-2)。



2. 抗うつ薬の種類(表1)

次に表1にわが国で使用されている抗うつ薬を示します。かつては三環系ないし四環系抗うつ薬が使用されてきましたが、①便秘、口の渇き、目のかすみなどの抗コリン性副作用と②大量服薬による心臓へ悪影響などが問題とされていました。

しかし、近年SSRIまたはSNRIと呼ばれる新しいタイプの抗うつ薬が登場してきています。これらの薬剤の長所としては、上記にあげた三環系ないし四環系抗うつ薬の副作用が少ないという点です。

SSRIはSelective Serotonin Reuptake Inhibitorsの略で「選択的セロトニン再取り込み阻害薬」と言われ、わが国では1999年よりルボックス・デプロメール(一般名：フルボキサミン)、2000年よりパキシル(一般名：パロキセチン)、2006年よりジェイゾロフト(一般名：セルトラリン)が用いられています。またSNRIはSerotonin

Noradrenaline Reuptake Inhibitorsの略で「セロトニン-ノルアドレナリン再取り込み阻害薬」と言われ、わが国では2000年よりトレドミン(一般名：ミルナシプラン)が使えるようになっています。

表1. わが国で使用される抗うつ薬

1. 三環系；トリプタノール、アナフラニール、トフラニール、ノリトレン、アモキササンなど
2. 四環系；ルジオミール、テトラミド、テシプールなど
3. SSRI (Selective Serotonin Reuptake Inhibitors：選択的セロトニン再取り込み阻害薬)；ルボックス・デプロメール、パキシル、ジェイゾロフト
4. SNRI (Serotonin Noradrenaline Reuptake Inhibitors：セロトニン-ノルアドレナリン再取り込み阻害薬)；トレドミン
5. その他；ドグマチール・アビリット、レスリン・デジレル、セディールなど

(裏面へ続く)